日本経済新聞　2018年（平成30年）6月12日（火曜日）

迫真 HAKUSHIN

骨抜きの財政健全化 1

社会保障費 避けた「抑制」

4月27日、首相官邸。「キャップをはめるような議論はしたくない」。首相、安倍晋三（63）は財務相の麻生太郎（77）と向き合うと、財務省の提言にクギをさした。

財務省案は今後3年間の社会保障費の伸びを計1・5兆円増より大幅に抑制する内容だった。「『抑えられる』という言い方はやめてほしい」。安倍の一言で抑制目標の明記は早々に見送りが固まった。

□　□

政府は毎年6月ごろに経済財政運営の基本方針（骨太の方針）を決める。今年は財政健全化計画で社会保障にどこまで切り込むかが焦点だった。

安倍は社会保障改革の時期にもこだわった。「来年の参院選以降だ。時期は任せてほしい」と財務省に伝え、参院選前の改革断念を求めた。

2021年秋までの衆院議員の任期を見通すと、参院選は最大ともいえる関門だ。経済財政諮問会議には40年度の社会保障給付費が190兆円前後に達するとの試算が報告されたが、骨太方針の社会保障政策からは改革の実施時期が抜け落ちた。

「ここで失敗すると10年くらい立ち直れない。デフレ脱却はできなくなる」。5月28日、安倍は公明党政調会長の石田祝稔（66）から骨太方針に関して経済成長も重視するよう求める党提言の説明を受け、こう語った。

骨太方針は歳出の「抑制」より経済の「成長」に重点が置かれた。基礎的財政収支の黒字化目標は25年度に5年先送り。3年後の21年度に財政状況を検証するとした中間目標の指標はすべて国内総生産（GDP）比とされた。

なぜ健全化の計画を盛り込んだ骨太方針で歳出抑制が薄れたのか。

9月の自民党総裁選をにらむ政調会長、岸田文雄（60）は昨年から財政規律を重視する姿勢を鮮明にしていた。「財政出動が将来への不安を増大させかねない」。2月の衆院予算委員会では安倍に直接、アベノミクスの根幹といえる財政出動に注文を付けた。

だが5月に入り骨太方針のとりまとめ作業が進むと、岸田は持論を抑え党内調整を優先させた。

「歳出削減は国民の所得を減らす。これをまだやるんですか」。衆院当選1～3回の若手議員らでつくる勉強会の主宰者、安藤裕（53）らは消費増税凍結を掲げ、財政引き締めをけん制。安藤の背後には安倍の意向をくんだ官房副長官、西村康稔（55）らが控え、岸田が突っ込めば安倍・岸田の衝突は必至だった。

安倍との関係が悪化すれば、岸田が穏便に政権を引き継ぐシナリオは崩れかねない――。岸田派にこうした懸念が持ち上がり「財政再建なんて暗い話ばかりしても仕方ない」との声が漏れた。

「党内にはいろんなベクトルの人がいる。まとめるのがどれだけ大変かよくわかりました」。5月28日、首相官邸で岸田が安倍に渡した党提言は、社会保障費の抑制目標などが盛り込まれず、結果的に安倍と歩調を合わせる内容だった。安倍は提言にあった「基礎的財政収支の黒字化は25年度までの間に達成すべきだ」との文言に25年度が含まれていることを確認すると、うなずいた。

□　□

決裁文書改ざん問題などの不祥事で揺れる財務省は組織防衛に力を割いた。骨太方針で官邸・与党を抑える余力は残っていなかった。

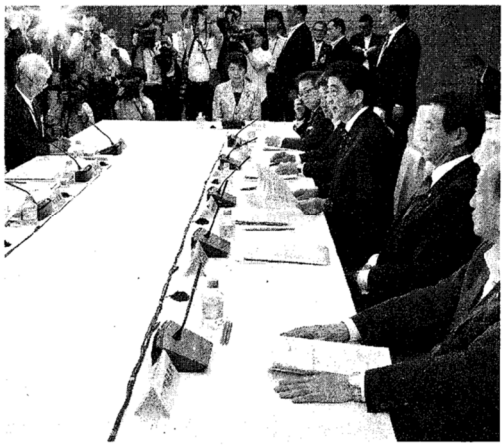
財務省が改ざん問題をめぐる調査報告書を公表した翌日の6月5日。同省2階の大臣室に局長や課長ら幹部が続々と入った。麻生は「財政再建には国民の理解が必要だ。国民の感覚からずれてはいけないし、国民の理解を得る努力をし、能力を身につけないといけない」と説いた。

財務省が今回の骨太方針で想定したのは、毎年度の予算規模の目安となる社会保障費や政策経費の水準を明記することだった。「麻生大臣は不祥事による若手の士気低下を最も心配している」。会議に出席した幹部の一人はこう話した。

01年に経済財政諮問会議ができた当時の財務相、宮沢喜一が「予算は財務省に任せて骨太の議論をしていただければ」という趣旨の発言をしたのが「骨太」の呼び名のきっかけだ。骨と言えば細いわけにはいかないから「骨太」というのは、骨太を軽んじた皮肉も込めた宮沢一流の表現。今回の骨太はその通りに大胆に踏み込めない内容にとどまった。（敬称略）

◇

政府は15日、骨太の方針を閣議決定する。財政健全化は骨抜きになった。政策決定の過程や与野党の動きを追う。



経済財政諮問会議であいさつする安倍首相（5日、首相官邸）